

COVID-19 治癒後の諸症状の一症例

清明院
竹下 有

【緒言】

COVID-19 に関しては、まだ不明な点が多いが、後遺症の問題が指摘されている。今回、COVID-19 治癒後に発症した腰痛ならびに残存していた諸症状に対し、北辰会方式による弁証論治を駆使し、少数鍼治療により良好な結果を得たので報告する。

【症例】

初診：X年4月。30代男性。主訴：腰痛、胸背部痛、咳、呼吸困難感。
既往歴：肺気胸（23歳時自然気胸、穿刺脱気療法、以降黄痰が継続している）。
現病歴：X年3月に発熱38°C、味覚異常、咳、呼吸困難感を発症。PCR陽性、X-Pにて両肺に陰影を認め入院。4月にPCR陰性となり退院するも、直後に急性腰痛を発症。腰部X-Pでは異常なく、鎮痛薬、座薬にて少し疼痛緩解したものの、呼吸時の胸背部痛、咳等も残存しており、尿黄もあったことから、後遺症を不安に感じて来院。脈診：滑数実、舌診：腫脹、薄白膩滑苔、舌腹紅絳。

【診断・治療】

- (1) 弁証：湿熱痺(熱重湿軽)、肺腎陰虚
- (2) 治則治法：清熱利湿
- (3) 処置：左豊隆に寸6-5番鍼で瀉法

【経過】

初診後、腰痛、胸背部痛ともにNRS10→3。入院時より尿が濃黄色であったが、淡黄色に変化。5診目（初診20日後）には咳、胸背部痛も改善。7診目（初診34日後）には諸症状すべて消失し、略治とした。豊隆以外の使用経穴は天枢、関門への瀉法。以降、数カ月経過したが、症状再発、悪化をみない。

【考察】

本症例とCOVID-19との因果関係を断言することは出来ないが、中国鍼灸学会による『新型コロナウイルス感染症への針灸介入に関する手引き』（第二版）にあるように、主訴である腰痛以外の呼吸の状況まで改善していることから、退院後も残存した湿熱邪の除去から、結果的に培土生金の効果が得られたことを示唆するものと考えられる。

キーワード:COVID-19 胸背部痛 弁証論治 北辰会方式 少数鍼